

世界に翔く宮崎牛

1997年9月号

No.19



第4区首席に輝いた「まつはな2の1」号
(出品者 都農町 永友 浩)



第5区首席に輝いた「くろきひめ2」号
(出品者 都農町 黒木忠雄)

9月号目次

第7回全共で宮崎県代表牛が大健闘～第4区、第5区、第10区で優等賞 首席～ (家畜登録協会)	2
肉用牛産肉能力検定情報 ～「鶴雪号」間接検定で脂肪交雑3. 1～ (家畜改良事業団)	3
肉用牛生産安定緊急対策事業 (農畜産業振興事業団助成事業)について (宮崎県経済連)	4
中核肉用牛繁殖経営育成対策事業について (肉用子牛価格安定基金協会)	6
一貫経営の有利性を実証 ー都農町 黒木 誠さんー (畜産会)	7
「鶴雪」号の間接検定成績・第7回和牛全共の会場風景	8

『第 7 回全共で宮崎県代表牛が大健闘』
第 4 区、第 5 区、第 10 区で優等賞首席!!

「育種価とファイトで伸ばす和牛生産」をテーマにした第 7 回全国和牛能力共進会の最終審査は、9 月 11~15 日、岩手県滝沢村の岩手産業文化センター（肉牛の部：岩手畜産流通センター）で開催された。宮崎県からは第 3 区（若雄の 3）を除く全区に、25 頭の県代表牛が出場し、全国から集まつた種牛 236 頭、肉牛 144 頭とともに、「日本一の座」を目指して、審査にのぞんだ。

審査の結果は、第 4 区（若雌の 1）、第 5 区（若雌の 2）、第 10 区（肥育・父系牛群）で最高位の優等賞首席となり農林水産大臣賞を受賞するという快挙を達成した。この他の代表牛も第 9 区（高等登録群）で優等賞二席となるなど、種牛の部で個体出品の 6 頭、群出品の 3 群、肉牛の部で群出品の 2 群と、出場した全代表牛が優等賞上位に選出されるという、まさに大健闘の成績を上げ、「和牛のオリンピック」といわれる最高の舞台で、「宮崎牛」の実力を全国に向けてアピールすることができた。

(優等首席)

区分	名号	生年月日	父	母の父	母方祖父	出品者
第 4 区	まつはな 2 の 1	H8.6.10	福茂	糸晴	隆 桜	都農町 永友 浩
5 区	くろきひめ 2	H8.2.11	糸秀	長久	秀 安	都農町 黒木忠男

(優等首席)

区分	名号	生年月日	父	母の父	母方祖父	出品者
健	也	H7.9.23	福 桜	菊 正	茂 金	都城市 淳上正治
第 10 区	金 福	H7.9.28	福 桜	茂 金	第 8 気高	都城市 淳上正治
	泉	H7.9.23	福 桜	祖母錦	秀 安	J A 宮崎中央

・第 10 区は第 7 区との連動で同一種雄牛の産子去勢牛 3 頭を 1 群として出品される。

・この群れは特別賞（産肉種牛賞）も合わせて受賞した。

第 7 回全国和牛能力共進会最終比較審査結果（種牛の部、第 1 区～第 9 区）

出 品 区 番 号	名 号	生 年 月 日	血 統			出 品 者	成 績	特 別 賞
			父牛	母の父	母の祖父			
1 1	花 幸 桜	96/05/10	隆 桜	幸 久	安 隆	(えびの市) 宮崎県(構造秋政)	優等賞11席	体上線賞
2 23	福 福 桜	95/12/10	隆 桜	安 福	茂 富士	(えびの市) 宮崎県(構造秋政)	優等賞4席	
4 35	ひ で か ず	96/06/26	糸秀	祖母錦	奥 高	西臼杵郡高千穂町 甲斐 賴明	優等賞6席	
4 41	まつはな 2 の 1	96/06/10	福茂	糸 晴	隆 桜	児湯郡都農町 永友 浩	優等賞首席	
5 81	くろきひめ 2	96/02/11	糸秀	長 久	秀 安	児湯郡都農町 黒木 忠雄	優等賞首席	
5 88	第 4 まるひめ	96/01/28	糸秀	隆 美	長 久	児湯郡川南町 甲斐 栄	優等賞6席	
6 98	ふ く と み	95/12/18	糸秀	富 栄	一 福	西諸県郡高原町 宇戸 行夫	優等賞11席	
6 110	あ け み	95/11/04	安 平	糸 秀	隆 美	北諸県郡高城町 古川 重久	優等賞15席	
7 173	み わ	95/11/27	福 桜	糸 秀	第20平茂	都城市 茶木 和久	産肉種牛賞 (7 区・10 区連動区)	
7 174	つか ふ く	95/11/27	福 桜	糸 秀	安 福	北諸県郡高崎町 追間 清重		
7 175	さ き この 4	95/11/20	福 桜	第4福美	安 隆	北諸県郡山之口町 田上 義行		
7 176	あ つ み	95/11/18	福 桜	糸 秀	菊 照	北諸県郡山之口町 川内 藤義		
8 233	き ん	92/08/15	糸秀	富 栄	一 福	小林市 岡原 正春		
8 234	ひかり の 4	91/04/03	糸秀	香 峰	第2藤井	小林市 山田 真司		
8 235	ひ で こ	90/12/26	糸秀	隆 美	高 義	西諸県郡野尻町 永田 景行		
8 236	い と ひ め	88/08/03	糸秀	富 栄	幸 久	西諸県郡高原町 田中 四男		
9 277	と み は な	90/06/21	富栄	香 峰	利 美	小林市 谷之木 秀幸		
9 278	い と は な	92/05/18	糸秀	富 栄	香 峰	小林市 谷之木 秀幸		
9 279	と み さ か え	95/04/05	糸秀	富 栄	香 峰	小林市 谷之木 秀幸		

(肉牛の部、第 10 区・第 11 区)

第 10 区『福桜』

出 品 区 番 号	名 号	生 年 月 日	血 統			产 地	肥 育 農 家	成 績	特 別 賞
			父牛	母の父	母方祖父				
10 31	健 也	95/09/23	福 桜	菊 正	茂 金	都城市	都城市 淳上 正治		優等賞首席 (7 区・10 区連動区)
10 32	金 福	95/09/28	福 桜	茂 金	第 8 気高	高崎町	都城市 淳上 正治		
10 33	福 泉	95/09/23	福 桜	祖母錦	秀 安	高千穂町	宮崎市 J A 宮崎中央		

第 11 区『安平』

出 品 区 番 号	名 号	生 年 月 日	血 統			产 地	肥 育 農 家	成 績	特 別 賞
			父牛	母の父	母方祖父				
11 85	利 樹	95/09/30	安平	菊 正	茂 正	山田町	三股町 別納 軍一		優等賞 4 席
11 86	糸 平	95/10/01	安平	糸 弘 2	安 隆	えびの市	野尻町 柏原 博文		
11 87	道 成	95/09/18	安平	隆 美	糸 秀	東郷町	野尻町 柏原 博文		

肉用牛産肉能力検定情報

—「鶴雪号」間接検定で脂肪交雑 3.1 —

種雄牛名	鶴雪	产 地	兵庫県美方郡	生年月日	H 5.1.20	登録番号	黒12467
血 統	第 2 安鶴土井	安美土井			田安土井	黒育 6	
		黒育 48			ふくむすめ	黒育 498	
		きくつる			菊美土井	黒育 5	
		黒育 29920			しょうふく 3	黒369679	
	まさゆき 3	安幸土井			安美土井	黒育 48	
		黒育 169			みつふく	黒育 1447	
		まさゆき			菊照土井	黒高 100	
		黒高 126383			黒高 107634	とよひめ 1	黒育 88668

間接検定成績 () 内は平成 8 年度全国平均

終了時体重…575.8 (581.1) kg 1 日当たり増体重…0.86 (0.89) kg 枝肉重量…344 (345) kg

肉用牛生産安定緊急対策事業（農畜産業振興事業団助成事業）について 宮崎県経済連

【事業のねらい】

国際化が進展するなかで肉用牛生産を振興するためには、輸入牛肉に対抗できる品質面の優位性を保ちつつ、生業コストの低減が必要である。また、子牛価格は近年回復基調にあるが飼養戸数は一貫して減少傾向にあり、これが続くと国内の繁殖基盤が崩壊し、輸入牛肉の大幅増加につながることが懸念される。

このため、改良集団による優良牛への淘汰更新、計画交配の推進、雌牛の肥育技術の確立などをすすめ、生業基盤の確立を図る。

【事業の概要】

繁殖雌牛牛群 緊急整備対策事業	(1)繁殖雌牛牛群 整備推進事業	・繁殖雌牛の淘汰・保留の実施基準 及び計画の策定 ・整備推進のための調査、指導、普及等	定額
事業主体：経済連	(2)繁殖改良集団 緊急育成奨励 事業	・優良繁殖雌牛の改良集団育成	40万円／集団
	(3)繁殖雌牛淘汰 事業	・不良繁殖雌牛の淘汰	35千円／頭
	(4)指定交配奨励 事業	・指定繁殖雌牛に認定種雄牛を交配 (改良集団)	2万円／頭
	(5)地域特産牛 生産推進事業	・地域特産牛の安定的な生産を推進する ために、研究会、技術講習会等の開催 ・宣伝広告活動、調査、普及、現地指導 ・地域特産牛の安定生産推進	定額
	(6)雌子牛適正 利用生産推進 事業	・雌子牛肥育技術確立のため飼養管理内容、 枝肉成績等の情報提供	2万円／頭

【主な事業の内容】

繁殖改良集団緊急育成事業

繁殖改良集団（＝JA繁殖部会等）が改良・管理技術研修会及び繁殖牛の淘汰更新のための検討会などの活動を行うのに対して助成します。

(55集団、1集団当たり40万円)

繁殖雌牛淘汰事業

改良集団が繁殖雌牛の改良を促進するため、繁殖成績、産子成績などを基準にして繁殖雌牛の淘汰をするのに対して奨励金を交付します。

(795頭、1頭当たり35,000円)

指定交配奨励事業

改良集団が指定した繁殖雌牛に認定種雄牛を計画的に交配するのに対して奨励金を交付します。

(170頭、1頭当たり2万円)

雌子牛適正利用生産推進事業

雌子牛の肥育技術を確立するために、血統、飼料給与、枝肉成績などの技術データを肉用牛協会に提供する肥育牛管理者に対して助成します。

(576頭、1頭当たり2万円)

地域特産牛生産推進事業

各地で牛肉のブランド化がすすめられ、国内の産地間競争がますます激化するなかで宮崎牛のブランド確立によって、ゆるぎない肉用牛生産体制を築くことが必要となっています。

このため、宮崎県経済連が事業主体となって、地域特産牛＝宮崎牛の安定的な生産の推進をめざした技術講習会の開催等とともに、広範な需要開拓、PR活動を行います。本年度の宣伝、広報活動の概要は次のとおりです。

宮崎牛フェア

4月	食の博覧会	(大 阪)
8月	エビスピアステーションフェア	(東 京)
10月	宮崎市内ホテルタイアップフェア	(宮 崎)
11月	全日空ホテルフェア スーパー松原フェア	(東 京) (和歌山)

和牛全共

平成 9 年 9 月、岩手県で開催される第 7 回全国和牛能力共進会では、同会場内で行われる「ファームフェスタ'97 in いわて」の“全国お肉自慢フェア”に参加します（9月 11 日～15 日）。

フェアでは、宮崎牛の試食やPR活動、需要開拓活動等を行って共進会に参加する全国のみなさんに宮崎牛のすばらしさを知ってもらいます。

広報等

宮崎牛 PR のための屋外広告看板（宮崎市内、源藤交差点付近、宮崎大橋付近等）を設置します。

また、PRポスター、チラシを作成し、各種イベントで宮崎牛の普及に活用します。



宮崎牛フェア（大阪・食の博覧会）

中核肉用牛繁殖経営育成対策事業

1. 中核肉用牛繁殖経営育成対策事業は

- 今後、肉用牛繁殖資源の維持・拡大を図るため、繁殖雌牛の導入や自家保留により規模を拡大しようとする中核的な肉用牛繁殖経営体に対し助成を行うこととし、もって肉用牛生産の安定的発展に資するものとして実施されます。

2. 事業の実施期間

- 平成 9 年度から平成 13 年度までの 5 年間ですが、事業参加される生産者の増頭状況を考慮し、事業の実施期間を 1 年間延長出来ます。
- なお、この事業に参加する生産者の事業実施期間は、参加申し込み年度から 3 年間としますが、増頭状況を考慮して 1 年間は延長出来ます。ただし、延長期間内の奨励金の交付はありません。

3. 事業に参加するには

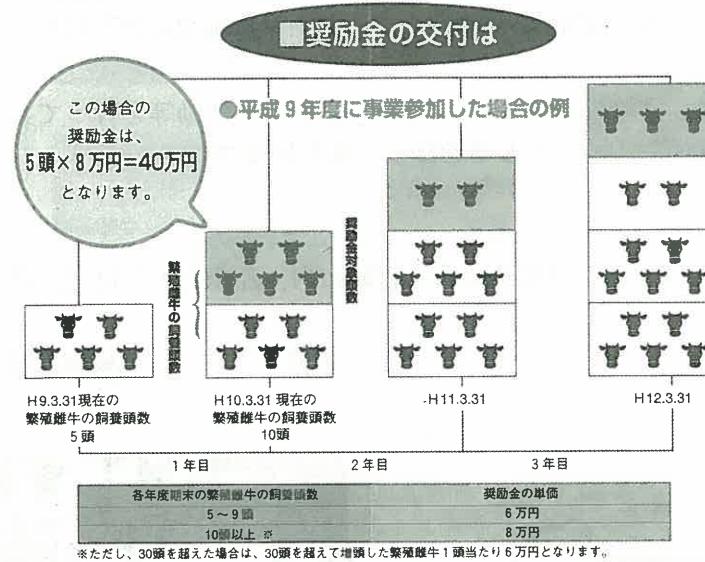
- この事業は、「肉用牛生産者補給金交付契約」を結んでいる生産者のかたが参加出来ます。
- 農協等を通じて「奨励金交付契約」を結んでください。
農協等を通じて 3 年間の「繁殖雌牛増頭計画書」を提出して下さい。
〔「奨励金交付契約」と「繁殖雌牛増頭計画書」は 1 枚の用紙になっていますので、計画増頭数の記入と署名、押印をお願いします。〕

4. 奨励金の交付は

- 奨励金単価

各年度期末の繁殖雌牛の飼養頭数	奨励金単価
5 ~ 9 頭	6 万円
10 頭以上 ※	8 万円

※ただし、30 頭を越えた場合は、30 頭を越えて増頭した繁殖雌牛 1 頭当たり 6 万円となります。



- 現在 0 頭の生産者でも 3 年間で 5 頭以上の繁殖雌牛を飼養すれば参加可能です。
- 計画頭数に対する実績頭数の比較は行いません。
- 奨励金が返納となる場合がありますので繁殖雌牛の飼養頭数が減った時等は、農協に早めにご相談下さい。

5. 注意していただく点

- 各年度期末頭数の考え方
 - 奨励金交付の対象除外牛があります。
 - (1) 家畜導入事業資金供給事業により導入した牛
 - (2) 家畜振興資金を借り受けて購入又は育成した牛
 - (3) 優良肉用牛資源有効活用促進事業により購入した牛
 - (4) 導入時点で満 48 ヶ月以上の牛

一貫経営の有利性を実証

—都農町 黒木 誠さん—

肉用牛経営においては、優良肥育素牛の安定的な確保と収益性の向上を目的として、子牛生産から肥育までを同一経営内で行う肉用牛一貫経営が注目されています。

本年 7 月 2 日、東京都内で開かれた平成 9 年度全国優良畜産経営技術発表会（主催：中央畜産会）において、児湯郡都農町で肉用牛一貫経営に取り組んでいる黒木誠さん（45）が畜産局長賞を受賞しました。

全国 32 県より推薦された畜産経営 38 事例の中から、現地調査を経て優良経営に選ばれた黒木さんの経営について紹介します。

1. 経営の概要（平成 8 年次）

飼養頭数・・・繁殖牛 36 頭、子牛 26 頭、肥育牛 76 頭（期末）
土地面積・・・水田 0.2ha、畑 1.55ha（飼料生産の面積）3.1ha
労働力関係・・・農業従事者数 4 名
繁殖部門年間労働時間 1,438ha（成母牛常時 1 頭当たり 42.8h）
肥育部門年間労働時間 2,132h（肥育牛常時 1 頭当たり 25.7h）
平均分娩間隔・・・11.4 カ月 種付回数・・・1.2 回
肥育牛出荷頭数・・・50 頭（うち自家産 25 頭） 飼養日数（肥育）・・・538 日
日增体重（肥育）・・・0.730kg

2. 経営の推移

黒木さんは昭和 49 年から人工受精師兼技術指導員として農協に勤務しながら肉用牛の繁殖経営を実践していました。昭和 62 年に繁殖経営から一産取り経営に切り替え、併せて増頭を図りましたが、最初の 2 年間は子牛の事故が多発するなど問題が多く、本格的な肉用牛経営を行なうため農協を退職して経営改善に努めました。平成 4 年になると一産取り肥育の中心となる 3 等級の枝肉価格が下落したため、一産取り経営のメリットが發揮されなくなったこともあり、平成 5 年に一貫経営に移行しました。黒木さんは一貫経営であっても経営改善のためには部門別の検討が必要と考えて、繁殖部門、肥育部門別に記帳を行い、それぞれのコスト、収益性の点検を行っています。

3. 経営改善のための取り組み

黒木さんが収益性の高い肉用牛一貫経営を確立できたポイントは次のように要約されており、「繁殖」と「肥育」の相乗効果が十分に発揮された結果であると考えられます。

① 受胎率の向上

一産取り肥育経営においては、受胎率の悪い牛は肥育仕向けということで受胎率を安易に考えがちです。一貫経営では大きく経営に影響します。そこで、今までの母牛の飼養管理が肥育的な飼養であったため、給与飼料の分析、分娩前後の給与体系などの改善を図りました。また、母牛の個体管理、観察を徹底して取り組み、授精適期の見逃しをなくしたこと、分娩間隔が全国の先進的事例（12.5 カ月）より、1.1 カ月の短縮となっています。

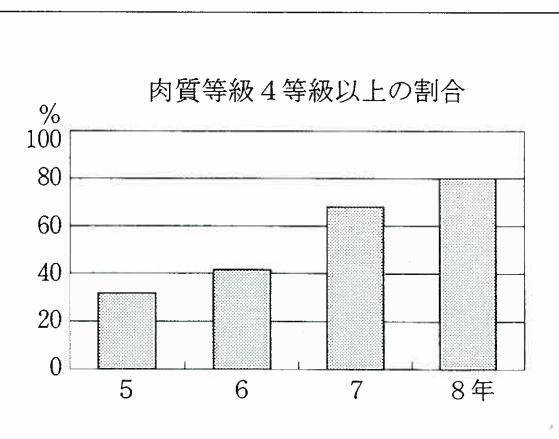
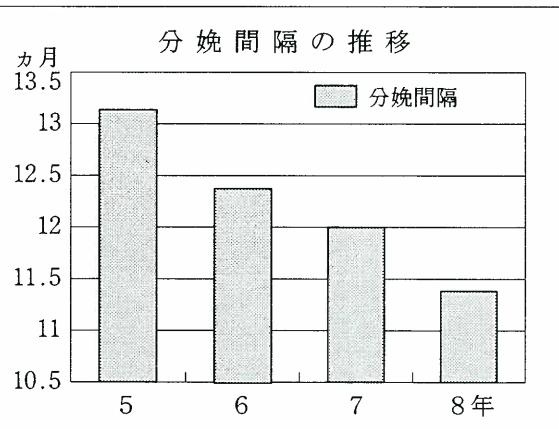
② 肉質の向上

試験的に去勢子牛を 3 頭自家保留し、平成 5 年に出荷したところ、すべて 5 等級の肉質であったことから、一貫経営への取り組みに目途が立ちました。

自家生産した子牛を肥育まで同一経営内で飼育するため、飼い直しの必要がないこと、環境の変化にもなるストレスを受けないことなど、多くの利点があります。加えて、市況に関係なく自家産の優良素牛の保留が容易にできます。また、母牛の更新にあたっては、枝肉成績を徹底的に分析し、その結果に基づいて駄牛の淘汰を行い、産肉能力が確認できた母牛と種雄牛の組み合わせを十分に検討できることから、枝肉成績が大幅に向かっています。

③ 経営検討会の実施

平成 6 年から、地域の仲間 4 戸（一貫経営 3 戸、肥育経営 1 戸）で畜産会簡易診断グループをつくり現在まで継続して活動しています。この活動では、一貫経営では 3 戸とも繁殖部門と肥育部門に集計整理を行い、部門別実績が分かるようにしています。また、グループでは各個人の生産技術や経営収支をオープンにし、グループ内での比較検討を全員で行っています。これによって、お互いに刺激し合いながら、年間目標所得に向けての進行管理を行い、また、検討会などで判明した共通課題は、その改善事例を求めて県内だけでなく県外まで全員で視察に行き、一つ一つ改善し、グループ全体の向上につなげています。



「鶴雪」号の間接検定成績



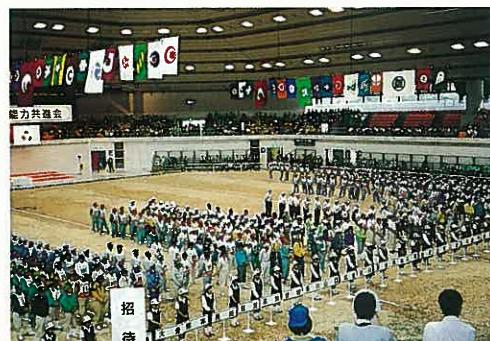
鶴雪号

No. 8 検定牛の枝肉
(脂肪交雑 5、A-5)

第 7 回和牛全共の会場風景



宮崎県出品者の顔ぶれ



開会式風景



出品牛のパレード



審査風景



全国お肉自慢フェア



大好評の「宮崎牛」

発行所 宮崎県畜産会
0985-24-2674